

国際文化交流の祭典の実施の推進に関する
基本的な計画の策定に係るヒアリング



横浜トリエンナーレ
YOKOHAMA TRIENNALE

資料2

横浜トリエンナーレ

2018年9月21日(金)

横浜美術館館長 逢坂恵理子

世界各国でなぜ現代アートフェスティバル
(ビエンナーレ、トリエンナーレ)が増えているのか？



21世紀 グローバル化とガラパゴス化 均質と孤立

国の経済発展、安定 → 都市の均質化
都市のアイデンティティに文化が重要
都市や地域の魅力を再発見

なぜ、現代アートか？



Contemporary Art

＝同時代の美術の受容と発信

＝文化振興の必然性



人間、社会、政治、環境など、
多くの美術家は複眼的な視点で、
今生きている時代の課題や、
様々な気づきを与えてくれる



国、人種、時代を越えた相互理解
国際的な双方向の交流を可能にする

社会の現状



日本一年間3万人弱の自殺者 10代と中高年

不登校の学生 12万人

近親者の傷害・殺人、育児放棄、いじめ、
→ ストレスフルな環境

少子高齢化によるジェネレーション・バランスの崩壊
→ 2040年、45%が60歳以上



気候変動 → 自然災害の増加、巨大化

資本主義に対する懐疑 → 貧富の差 拡大

対立と紛争の激化 → 民族移動、難民、保守化

効率や数値による評価偏重による弊害 → 息苦しさ

身の丈の生活への関心 → 心地よさ

生きにくい複雑な社会を生き抜く

アートの創造性によって
日本と世界の未来を開く



- 世界や人間を複眼的に見ることへの気づき
- 価値の異なる人々との共生をうながす
- 思考力、想像力、言語表現力を鍛える
- 数値で表現できない価値の大切さを知る
- わからないことがあるということを受け入れる
- デジタル時代にアナログ的コミュニケーションを促す
- 複雑な現代社会を生き抜く力をあたえる



現代アートフェスティバル（ビエンナーレ、トリエンナーレ）がもたらしてくれるもの

- 芸術振興＋人間性回復の場
- 国際相互理解のプラットフォーム

現代アートフェスティバルの運営



【海外】

- 専用の運営組織 ex.ビエンナーレ・ファウンデーション
- 専用の建物
- 専任のディレクター 常駐の専門家

【日本】

- 地方自治体が組織した実行委員会、組織委員会運営が多い
- 代表者の顔が見えない

人材の育成、雇用制度 → 緊急の課題
柔軟な運営制度が必要

横浜トリエンナーレ（都市型）



主会場：横浜美術館（2011年より）＋ 他

事務局：横浜トリエンナーレ組織委員会事務局
@横浜美術館内

スタッフ構成：横浜美術館、横浜市、
横浜市芸術文化振興財団、臨時雇用者

運営：美術館内とは別制度、別会計

特徴：展示には横浜美術館のコレクションを
必ず組み入れる